

# 適期刈り取り（予測）

## ～刈取り開始期の判断を的確に～

8月20日頃にはハナエチゼンの収穫期を迎えていると思われますが、コシヒカリは9月中旬、日本晴は9月下旬の収穫が予想されます。収穫が近づいたら穂の状態をこまめに観察し、適期収穫に努めてください。成熟期は品種ごとに出穂後の積算温度でおおよそ推測できますが、登熟期間中の気温の高低により変動しますので、籾水分や穂の黄化率で時期を補正し、刈取り日を決定しましょう。



### □収穫時期の目安（品種・地帯別）

品種名	田植・播種日	出穂期	出穂後の目安日数	予想収穫開始日
コシヒカリ(平坦地)	5月24日	8月3日	38日間	9月10日頃
日本晴	5月10日	8月11日	45日間	9月25日頃
コシヒカリ(山間地)	5月17日	8月2日	41日間	9月12日頃

※ 積算温度はあくまでも目安であり、それだけに頼らず籾水分等を必ず確認しましょう。



### □籾水分を測って刈取り日を決めよう

全ての品種において、刈取り開始期の目安となる立毛中の籾水分は25%です。籾水分が30%以下になれば玄米水分計で計ることができます。籾水分は30%以上の場合1日あたり0.9%程度低下します。30%以下になり収穫が近づくと(出穂後24~27日頃以降)、1日あたり0.5~0.6%くらい減少します。著しく刈り取りが遅れたりする(籾水分20%以下になる)と胴割粒が発生しやすくなりますので、収穫直前までの間断通水とあわせて適期刈り取りに努めましょう。

### □1穂あたりの青籾割合による補正

積算温度による収穫時期の判断だけでは難しいため、穂の様子をこまめに観察する必要があります。穂の外観上の収穫適期の目安は、穂元に緑色籾が10~15%残った状態です。圃場の何ヶ所(生育が比較的均一で圃場全体を代表できる場所)かで、5~6本の穂を束ねて手のひらに広げてみる。籾が全部黄色になる頃には、穂の先の籾が刈遅れの状態になっていることが多いため、穂元のほうに薄緑色した籾の割合が10%~15%(青籾割合が50%となつてから約9~10日後)を下回ったら刈取りを始め、5%程度になる頃に刈り終えるように心がけましょう。



# 収穫が終わったら

## すぐに土づくり



管内の土壌診断を行ってみると、稲が生育するのに必要なけい酸の土壌含有量が15mg/100gであるのに対し、その3分の1程度しかないのが現状です。この傾向は、越前たけふ管内全域に共通しております。

又、稲が生育する際、土壌の最適PHは微酸性～弱酸性（PH5.5～6.5）が良いとされていますが、近年強酸性（PH5.0～5.4）の土壌が多くなってきています。そのためにも来年度の良質米生産に向けて下記に紹介した資材を早急に散布して下さい。



### 土づくり資材の無料散布（下記のいずれかを散布して下さい）

◎ケイカル（砂）・・・10aあたりの施用量 500 kg

ケイカル500kg散布による、ケイ酸の適正量の供給による稲体の健全化と高温障害のよる品質低下の回避

資材費 13,500円

**購入助成 ▲3,000円**

負担額 10,500円

◎ホワイトカリウ・・・10aあたりの施用量 100 kg

ケイ酸要求度の高い資材で、生育中期から後期にかけてケイ酸供給機能が高く、収量構成要素の各段階で作用し登熟歩合および収量を高めます。

資材費 9,500円

**購入助成 ▲1,000円**

負担額 8,500円

**（ホワイトカリウは特裁認証①では使用できません）**

◎ケイフン（粉・ペレット）・・・10aあたりの施用量 100 kg

特に特別栽培において土壌中の腐植や肥料効果を高め収量・品質の向上を図るために散布しましょう。

資材費 700円

（105円/15kg）

**無償散布不可**